

授業科目 臨床看護総論(1) 救急 他	区分・教育内容		
	専門分野 I 基礎看護学		
授業担当者 加賀谷 園子 (専任教員)	開講時期	単位	時間数
	前期	1 単位	18 時間 / 30 時間
授業の目的 <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康上のニーズや健康上の経過(健康レベル)に応じた看護について理解する。 2. 救急蘇生法について理解する。 			
授業の目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康上のニーズに応じた看護の役割および実際がわかる。 2. 各健康レベルの特徴と看護の役割および実際がわかる。 3. 治療・処置を受ける対象者、医療機器を必要とする対象者の看護の要点がわかる。 4. 一次救命処置の実際がわかる。 			
授業概要 <p>看護の基本として、多様な健康上のニーズを持つあらゆる健康レベルにある人々に、基本的な看護の知識や技術を統合し応用するプロセスを学ぶ。</p> <p>健康上のニーズについて、自分や家族にあてはめて理解を深める。また、各健康レベルの特徴と急性期・慢性期にある対象者の看護について、事例を通して学ぶ。</p> <p>一次救命処置の技術習得を目指し演習・技術試験を取り入れる。</p>			
授業計画 (進め方) <ol style="list-style-type: none"> 1 回目 健康上のニーズをもつ対象者の看護 2~4 回目 健康状態の経過に基づく看護 <ul style="list-style-type: none"> ・急性期にある対象者の看護 ・慢性期にある対象者の看護 ・集中治療を受ける対象者の看護 5 回目 治療・処置を受ける対象者の看護 6 回目 医療機器を必要とする対象者の看護 7 回目 救急蘇生法を受ける対象者の看護 8・9 回目 一次救命処置の実際(演習：気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED) (技術試験：気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫) 			
テキスト <p>系統看護学講座 専門 I 臨床看護総論 医学書院</p> <p>看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア</p>			
参考書・指定図書			
評価の方法 <p>臨床看護総論 100 点満点中の 55 点。筆記試験(45 点)、一次救命処置技術試験(10 点)</p>			

授業科目 臨床看護総論 (2) 終末期看護	区分・教育内容		
授業担当者 船水 裕子 (中通総合病院)	開講時期 中期	単位 1 単位	時間数 8 時間 / 30 時間
授業の目的 <ol style="list-style-type: none"> 健康障害の進行や健康レベルに対応した看護の役割および実際について理解する。 様々な治療・処置に伴う患者の特徴・看護・救急法の実際について理解する。 授業の目標 終末期にある患者の特徴と看護の実際および役割がわかる。			
授業概要 <p>死が日常からかけ離されてしまった現代、終末期医療の臨床には様々な問題が存在します。それらに対応するためには、医療者にも死生観が求められます。</p> <p>授業では、私が臨床で経験した終末期看護を紹介しながら、学生の皆さんにも死を意識せざるを得なくなった患者さんや家族に対して、自分だったらどんな看護をしたいのか、自分の家族や自分自身はどんな看護を受けたいのか考えていただくきっかけが作れたらよいと考えています。終末期医療、看護は大変ストレスフルなものでもありますが、見方を変えれば自分の人生にとってプラスの経験になるものであると理解してもらえよう、話をすすめていきたいと考えています。</p> 授業計画 (進め方) <ol style="list-style-type: none"> 1 回目 終末期医療の特徴 終末期患者(家族を含む)の特徴の理解 2 回目 緩和ケア 3 回目 死にゆく人と家族のもつ苦痛とその対処 4 回目 死の看取りの援助 死亡時の看護行為 死後の処置 (エンゼルメイクのもつ意味と実際) 			
テキスト 系統看護学講座 専門 I 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 臨床看護総論 100 点満点中の 30 点 筆記試験及び演習での取り組み状況を総合的に評価する。			

授業科目 臨床看護総論 (3) 化学療法看護	区分・教育内容		
	専門分野 I 基礎看護学		
授業担当者 嵯峨 千春 (中通総合病院)	開講時期	単位	時間数
	中期	1 単位	4 時間 / 30 時間
授業の目的 <ol style="list-style-type: none"> 1. がん化学療法の目的・特徴を学ぶことができる。 2. がん化学療法を受ける患者と家族の特徴を理解し、看護の役割について学ぶことができる。 			
授業の目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. がん化学療法を受ける患者・家族の身体・心理・社会的特徴を理解し看護の役割がわかる。 2. がん化学療法の目的・特徴を理解し、副作用の発生機序・時期とその看護がわかる。 3. 化学療法を受ける患者のセルフケアの必要性を理解することができる。 			
授業概要 <p>がん化学療法の目的を踏まえ、がん化学療法を受ける患者の特徴をイメージしやすいように事例を通して説明し、がん化学療法を受ける患者の身体・心理・社会的な問題点や、それを支える家族の問題点を理解してもらいたい。</p> <p>また、がん化学療法の副作用対策について看護やセルフケア支援を理解してもらいたい。</p>			
授業計画 (進め方) <ol style="list-style-type: none"> 1 回目 がん化学療法の特徴 2 回目 がん化学療法を受ける患者・家族への看護援助 化学療法を受ける患者の社会的・精神的特徴と看護師の役割について まとめ 			
テキスト <p>系統的看護学講座 専門 I 臨床看護総論 医学書院</p>			
参考書・指定図書 <p>スキルアップがん化学療法看護 事例から学ぶセルフケア支援の実際 日本看護協会出版会 (2010)</p>			
評価の方法 <p>臨床看護総論 100 点満点中の 15 点 授業態度と筆記試験により総合的に評価する。</p>			